

平成22年度 森プロ事業実績：郡上森プロ

(平成23年3月末現在)

		H19～H21年度		H22年度			5カ年
		実績	計画	実績	達成率	備考	計画
集約化(ha)		160	59	40	68%		223
作業道(m)		6,182	6,032	4,424	73%	作業路含む	12,667
間伐等	面積(ha)	88	57	47	84%	利用+切捨	218
	材積(m3)	5,698	5,252	4,215	80%	支障木含む	22,518
備考		団地外実績(利用間伐 16.41ha 搬出材積 2,315m2 作業道開設 3,667m)※材積支障木込み					

H22年度利用間伐等における所有者への還元額(補助金含む) 2,240 円/m3

施業集約化の状況

- ・ 森プロ計画に基づき施業の集約化を実施した。
- ・ 新設された施業集約化特別チームが中心となり、他の地域も含め施業集約化の取り組みが進められた。

施業プランの活用状況

- ・ 担当者が森林所有者と面談し、施業内容を説明し承諾を得ている。高齢所有者も多く、詳細な提案書を求められるケースは少ない。

施業プランナーの養成状況

- ・ 施業プランナー:5名
- ・ H19:1名、H20:2名、H21:1名、H22:1名

作業道の状況

- ・ 10tトラックの走行を想定し幅員3.6mを標準とする幹線路網を優先して開設。
- ・ 設計、先行伐採、管理は、森林組合、施工は、外注により実施した。
- ・ 作業道の開設に当たっては、横断排水溝の適切な配置など雨水処理、無駄のない先行伐採に配慮した道作りを行った。
- ・ 既設路網の現状把握し、必要なメンテナンスを行った。



【作業道 奥の宮線】



【作業道 重根洞線】  
H21被災現場 補修前  
※H21作業道研修箇所



【作業道 重根洞線】  
同上補修後

### 作業システムの状況

- ・ 長伐期施業における中齢級の間伐を列状により実践
  - ・ 平成22年度 素材生産性 約13.0m<sup>3</sup>/人・日(伐採～積込まで)
  - ・ メインシステム: 伐倒(チェンソー)→集材(スイングヤーダー)→造材(プロセッサ)→積み込み(グラブ)→運材(10tトラック)
- ※作業道の状況によりフォワーダーを活用  
※スイングヤーダーにより80m程度まで集材  
※必要最小限の機械により作業を実施(基本は、グラブヘッド付きスイングヤーダー、プロセッサ)



【列状間伐→プロセッサ造材工程】  
(作業道 奥の宮線他)

### その他

- ・ 県森連ネットワークセンターと連携し、中間土場を活用した工場等への直送(システム販売)を促進し、価格安定、安定供給、流通コスト低減を図った。
- ・ 良質材の選別を正確に実施するとともに、出荷時期の調整、地元製材工場への葉枯らし材直接販売等の有利販売に取り組んだ。
- ・ 残存木の損傷を軽減するため現場指導を行った。



【大型トレーラーによる原木の直送出荷】  
(寒水中間土場)

### 森プロの成果

- ・ 新たな森林整備事業制度への対応を念頭に、組合内で切り捨て間伐から利用間伐への意識醸成が進み、林産班会議の開催、搬出プロジェクトチームの設置など木材生産促進のための体制強化が図られた。
- ・ 施業集約化特別チーム(H23.4より施業集約課に格上げ)が新たに組織され、森林整備、路網開設、林産、各部門の連携強化が図られた。
- ・ 必要最小限の林業機械を効率的に活用する生産システムが確立され、所有者への利益還元が図られた。

### 今後の課題

- ・ 災害に強い路網開設技術(適切な雨水処理、施工法等)、既設路網のメンテナンス技術の向上
- ・ オペレーター技術の向上(残存木損傷軽減、メンテナンス経費軽減等)
- ・ 梅雨時期の生産量確保(事業地確保、有利販売手法の検討等)
- ・ 森林整備作業班の木材生産技術向上(森林組合木材生産能力拡充)
- ・ 補助金大幅減に伴う補助事業減少への対応(皆伐を含む非補助事業展開の検討)